

2002～2003年度日本広報学会研究会報告書

企業統治  
と  
コーポレート・コミュニケーション

Corporate Governance & Corporate Communication

『企業統治とコーポレート・コミュニケーション』研究会

2004年7月

日本広報学会

Japan Society for Corporate Communication Studies

## はしがき

『企業統治とコーポレート・コミュニケーション』研究会報告を兼ねて

研究会主査 寺門 克

企業統治のあり方が注目されている。企業行動、なかでも経営者の意思決定に対する監視の目が厳しくなり、法的な強制力も強化されつつある。

当研究会では、企業にとって企業統治（コーポレート・ガバナンス）の主体者との有効かつ効果的なコミュニケーション活動は不可欠であるとの見解に立ち研究を行った。

コミュニケーション活動にとって、その対象の把握は最優先事項である。したがって、一年目に企業統治の主体者は誰かを探った。そのためには、企業統治について研究会メンバーの見解を統一しなければならなかった。そこで、企業統治の目的や形態についてのメンバーからの報告を重ね、大まかな同意を得ることができた。

企業統治の主体者については「株主」とする狭義の捉え方から、広く「社会」とする考え方まで見解が分かれたが、「株主をはじめとする企業を取り巻く人々」とすることとした。「ステークホルダーズ」と言い換えてもよい。そして、企業統治は、その形態のいかんにかかわらず、「株主をはじめとする企業を取り巻く人々が企業の活動全般、特に最高意思決定者の常態を監視、監督すること」と理解することとした。

以上を踏まえて、2年目には「企業の広報担当責任者が、企業統治の主体者について、どのように考えているか」を調査することにした。

“株主をはじめとする企業を取り巻く人々”とは、別の表現をすれば“企業の意思決定に対して影響力を持つ関係者”である。そして、企業行動（意思決定）に対して、利害などの関心を抱き、かつ影響力を行使しうる者は多種多様である。企業がそれらの人々に対し、漠然と十把一絡げのコミュニケーションを行っていたのでは有効かつ効果的な活動とはならない。コミュニケーションの対象をピンポイントで捉え、対象ごとに関心事を把握し、優先順位を設ける必要があると思われる。

そこでまずは、“企業の広報担当責任者の意識実態を捉えるアンケート”を実施した。

アンケート原案は、寺門が示した素案を研究会において袋叩きにし、小野、城、斉藤、寺門はじめメンバーでこれをまとめた。調査結果データをもとに、斉藤、寺門がそれぞれの視点で分析し報告した。

この調査は、当研究会の掲げる研究テーマ（『企業統治とコーポレート・コミュニケーション』）の全体像からすれば、その前半のデータであるにとどまる。企業統治の主体者がどのように考えているかについての後半の調査データが更に必要である。その双方を併せて企業統治を意識したコーポレート・コミュニケーションのあり方を導きださなければなるまい。

# 目 次

## はしがき

『企業統治とコーポレート・コミュニケーション』

研究会報告について ……寺門 克……………1

## 第1章 『企業統治とコーポレート・コミュニケーションの実態調査』 ……3

### 1-1 『企業統治とコーポレート・コミュニケーション実態調査』

の実態について ……小野豊和、斎藤敏行、城 義紀、寺門 克……………5

<調査票原票>……………6

1-2 調査結果の分析 A ……斎藤敏行……………13

1-3 調査結果の分析 B ……寺門 克……………31

## 第2章 「企業統治とコーポレート・コミュニケーション論」考察…………… 37

### 2-1 「コーポレート・ガバナンス」が重要視される時代の

「コーポレート・コミュニケーション」 ……奥津和宏……………39

2-2 コーポレート・ガバナンスの変容 ……藤原博彦……………45

2-3 コーポレート・ガバナンスと消費者関係 ……辻本 篤……………55

2-4 コーポレート・ガバナンスの中心は“取締役会” ……八木 誠……………61

### 2-5 企業統治とコーポレート・コミュニケーションに

関する一考察 ……萩原 昇……………71

### 2-6 行動基準に見るガバナンスの基礎としての

コミュニケーション ……河合秀樹……………81

2-7 企業統治と広報 ……金岡 隆……………91

## 第3章 ケーススタディ「企業統治とコーポレート・コミュニケーション」

…………… 99

### 3-1 ダイムラークライスラーの三菱自動車への支援打ち切りに見る

統治者株主一元論への疑問 ……城 義紀……………101

3-2 ヤマト運輸・小倉昌男氏に見るCG&CCの融合 ……森戸規雄……………113

3-3 社会・環境報告書におけるコーポレート・ガバナンス…小宮山恵三郎……………119

3-4 風通しの良い企業風土がカギ ……近藤基隆……………131

## あとがき

……………137